

# サイエンス読書カフェ 店主の独りごと

(第10回)

前日本科学技術ジャーナリスト会議会長・元読売新聞編集委員

小出重幸

# 口ウソクの科学

文庫版のマイケル・ファラデー著  
「ロウソクの科学」でした。

英國王立研究所で1860年12月、科学者のフアラ・デーが6日間にわたって行つた「クリスマス・レクチャー」の講演録をまとめたものです。階段教室から見下ろす実験台の上で、1本

東京・神田古書店街には最近まで、「景品」に本をそろえるパチンコ屋がありました。

松岡正剛さん



1960年～70年代、景品棚には文庫、新書をはじめ、医学、法学の専門書まで、ぎつしり詰まつた書棚があり、ここでパチン

コトと「交換」した一冊が、岩波

きた名著です。

べて」が、ロウソクが見せる現象に関わりを持つ、という広大な世界にいざなう優れた短編で、多くの科学少年少女を育んで

次世代を担う人たちに、優れた書を届けたいと、岩波文庫が「百冊の本」を選定していただけた時代がありました。同じ願いで、理化学研究所（松本紘

学栄誉教授も、「兄から薦められた、この本が、科学をこころざすきっかけになつた」と言います。同書は、ノーベル賞受賞のたびに増刷され、より多くの読者に届けられています。

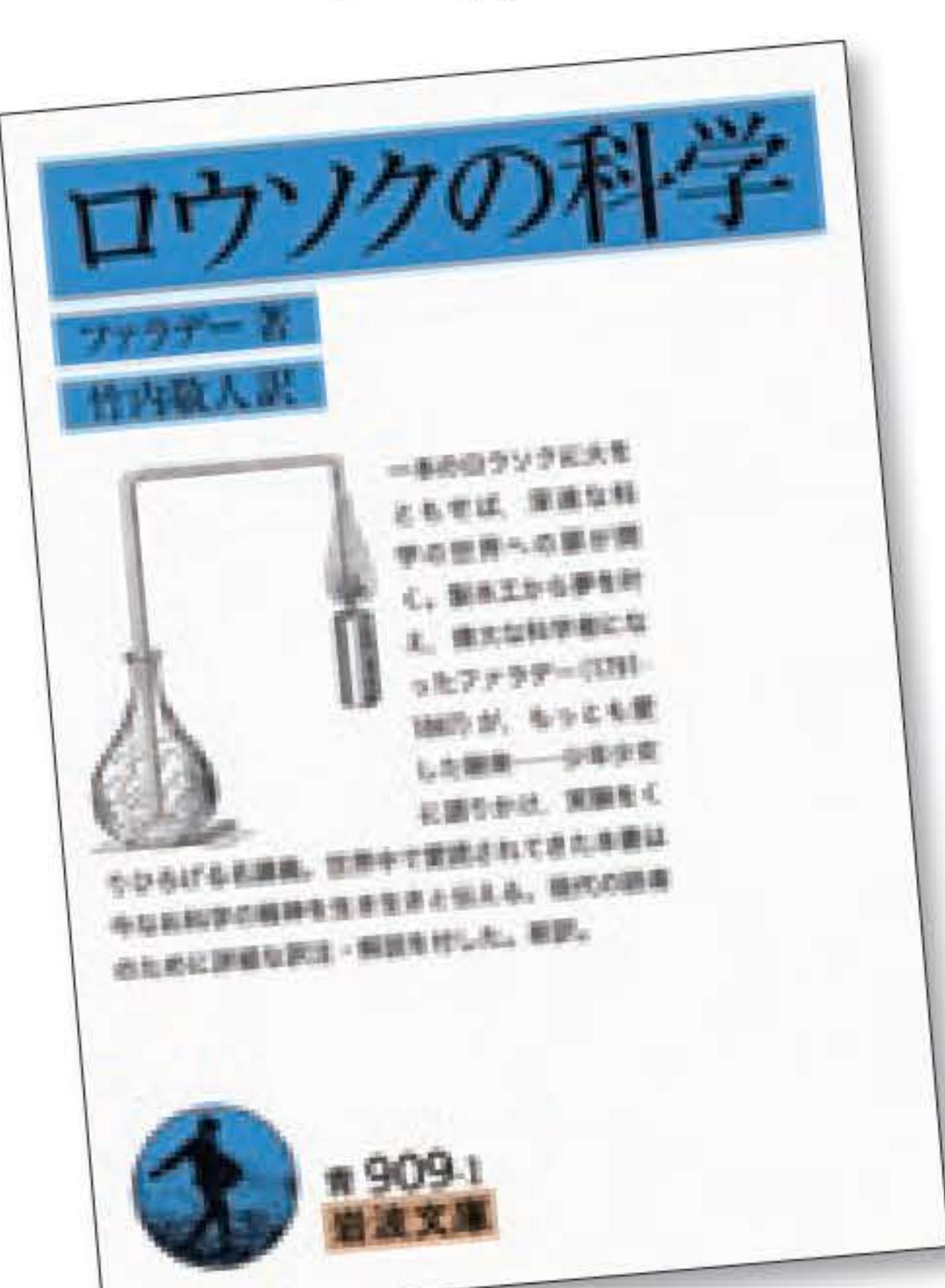
賞受賞が決まつた、リチウムイオン電池の開発者、吉野彰博士は、小学校時代に教師から薦められて読んだ、この書が、科学への扉を開いてくれたと、インタビューに答えていきます。2016年年のノーベル生理学・医学賞受賞者、大隅良典・東京工業大

科学道100冊；<https://kagakudo100.jp>

いうものでした。

この「科学道100冊」は、  
「大人になる前に出会つてほしい本」という視点から選んだ50冊の古典と共に、今年は「元素ハンター」、「美しき数学」、「科学する女性」をテーマとする50冊で、構成されてい

学の翼に乗つてそのまま天空を  
滑空できる……」（千夜千冊）  
というものでした。



## 「ロウソクの科学」ファラデー著 竹内敬人訳 岩波文庫



科学道100冊：<https://kaagakudo100.jp>

（「店主の独りごと」は今回で終わります）

ますが、大手町で開催している「サイエンス読書カフェ」では、この「100冊」も、選書の参考にしていきたいと思います。

ます。

「サイエンス読書カフェ」は、  
よみうりカルチャーのサイト  
[wwwyncnejpy-otemachi.php](http://wwwyncnejpy-otemachi.php)  
でご確認ください。

（）暗記\こと。

---

小出重幸(こいで



小出重幸(こいで しげゆき)  
1951年東京生まれ。科学ジャーナリスト。北海道大学理学部卒。政策研究大学院大学(GRIPS)客員研究員。昭和薬科大学講師。よみうり大手町スクールで「サ

イエンス読売カフェ」の『店主、を務めている。